

## 東日本大震災・デマ・風評被害・陰謀論

- ・ 放射能（東日本大震災）
    - ・ ヨウ素（東日本大震災）
    - ・ セシウム（東日本大震災）
    - ・ ストロンチウム（東日本大震災）
    - ・ プルトニウム（東日本大震災）
    - ・ ヒマワリで放射能除去？（東日本大震災）
    - ・ ホットスポット（東日本大震災）
    - ・ 動植物の変異（東日本大震災）
      - ・ チェルノブイリの動植物
    - ・ 放射線ホルミシス
- 

動植物の奇形は、放射能がなくても、ときどき発生する。今まで生物にまったく興味がなく、注意して見ていなかった人が、原発事故後に今までに見たことのない動植物を見て騒いでいるケースが多いようだ。

厳密には、放射能の影響を受けた場合と受けてない場合を比較して、その差を検討しないと、統計的にはなにも言えない。

- ・ Togetter
  - ・ 「スリーマイル奇形情報まとめ」 2011/9/3
  - ・ 「奇形情報まとめ（2）」 2011/10/19
  - ・ 「奇形関連のまとめのまとめ（人間編）」 2014/5/21
  - ・ 「奇形関連のまとめのまとめ（動植物編）」
  - ・ 「『一箱全て派手な奇形のナス！？』 『それ、天狗なすだろ。』 『知らないって怖いねw美味しいのに。』」 2013/5/18
  - ・ 「野菜が大きいのは気候の影響！！巨大ゴボウは「大浦ごぼう」、もともと大きなゴボウです！！」 2011/12/2
  - ・ 「『スリーマイル化する奇形作物』は完璧なデマ！！桜島大根に失礼です！！」 2011/12/13
  - ・ 「『花びら？葉っぱ？変わったチューリップ 山口』という記事に対する反応」 2012/4/18
  - ・ 「合体キュウリ、昔からあります！！」 2012/8/24
  - ・ 「グローブみたいなナスだって、昔からあります！！」 2012/10/3
  - ・ 「昆虫（クワガタ等）の雌雄モザイク、自然界に存在し得ないものではありません！！」 2012/10/5

## オオカミウオ

- ・ 「オオカミウオを釣って食べたら色々大変だった」 2015年11月12日、デイリーポータルZ

余談：大騒ぎになりました

ところで、Twitterに釣り上げたオオカミウオの画像をアップしたところ、予想外の騒動に発展した。

なぜか海外で「福島近海で獲れた異様な魚。原発事故の影響で誕生したゴジラフィッシュ」などとセンセーショナルに拡散、報道されてしまったのだ（ゴジラフィッシュというネーミングはある意味アリだなと思ったけど）。

いやいや、知床だし。オホーツク海に昔からいるごく普通のオオカミウオだし。と言っても、

多くの国の人にとってオオカミウオなんて馴染みのない魚。そして有無を言わさぬあの容  
貌。無垢な人なら信じてしまうのかもしれない。

騒動はあっという間に、僕一人では止めようの無い規模になってしまった。あらぬ風評にさ  
らされたオオカミウオに申し訳ない思いで胸が痛む日々がしばらく続いた。

だが、やがてフランスの「LE MONDO」紙やイギリスの「vice motherboard」が事の真相を詳  
しく報道してくれたおかげで、騒ぎはおよそ収束。オオカミウオの面目は保たれた(と思う)。  
まあ、まだネット上には適当なこと書きまくった記事が大量に残っているようだが。

以上、オオカミウオの顔よりネットや SNSの方が怖いね という話でした。

## トマト

- ・「トマト画像に勝手に「# 奇形」を付けられた方の災難」 2014/5, Together
- ・「『福島産の奇形トマト』はただの規格外品！！また画像 up 主が「福島第一原発全滅！死  
者は4300人だった！」というデマのネタ元である件！！」 2012/1/17, Together

## 一つ目サメ

- ・「一つ目サメ画像を拡散する NONUKES な方々。ただしソースは 2005 年のもの。」 2014/5  
, Together
- ・「まさかのホントバラエティー イカさまタコさま イカタコ調査員」 2012 年 11 月 29 日放  
送 19:00 - 20:49 TBS

7年前、日本で一つ目ザメが発見されたという記事が新聞にのっていたことがわかり、スタッフ  
は記事に乗った気仙沼に向かった。記事を書いた記者は一つ目ザメを実際には見ていないこ  
とがわかった。次に釣り上げたという漁師を訪ねると、漁師は釣り上げたサメの特徴は教え  
てくれたが、写真を持っていないと話した。すると、サメの写真を持っている男性がいるとい  
う情報を得た。

- ・「第14回 ひとつめのさめ」 October 4, 2005, 10:28 pm, 気仙沼発 リアスの海辺から

## 規格外イチゴ

- ・「規格外イチゴは「放射能の影響」騒ぎ立てる脱原発派に生産者反発」 2014/3/5 19:05、  
J-CAST ニュース

2014年3月2日、2ちゃんねるに「商品として出せないイチゴを農家の人からおすそわけさ  
れた」という主旨のスレッドが立った。紙箱にたくさん入ったイチゴの写真も掲載されたが、  
複数のイチゴがくっついて大きくなったようなものや、扇のような形に広がって筋が入って  
いるようなものが並んでいる。

この写真を、脱原発を訴えるあるツイッターユーザーが「奇形」「脱原発」というワードと  
ともに、同じく脱原発を訴えている、フォロワーが多いユーザーにリプライで送りつけた。

リプライを寄せられたある脱原発派の医師が、このリプライをリツイートした上で「すごい  
なこのイチゴ。露地栽培なのだろうか」と反応すると、脱原発派から「何か形悪くて気持ち悪  
い。私も似たようなの見たことあります。汚染ではないでしょうか？」「これは、異常だ！食  
べちゃダメ！」など、放射能の影響ではないかと考えているようなコメントが寄せられた。

この「ある脱原発派の医師」というのは、デマ拡散者としてツイッター上で悪名高きオノデキタ  
氏。

- ・「はいはいまた奇形( )かよ #放射脳 #オノデキタ」 Together, 2014/3/2

## ヒトデの大量死

- ・「カナダ・米国で起きたヒトデの大量死、福島原発事故と関連性はないとする3つの理由(米研究)」 2014年01月12日,カラパイア

クリス・マー博士は、以下3つの理由から福島原発事故とは直接的な関連はないと考えている。

SWSは福島原発事故より前から起きており、3～15年は続いている。3つの理由の中でこれが関連性を否定する一番の根拠となるだろう。1997年にカリフォルニア州のチャンネル諸島でSWSの記録がある。ブリティッシュコロンビア州でのSWSの最初の記録は2009年である(データ集めは2008年から行われていた)。一方、福島原発事故はこれより後の2011年3月に起きている。

SWSは太平洋だけでなくアメリカ東海岸でも起きている。福島原発事故とSWSを結びつけている多くの人達がこの点を見落としている。アメリカの東海岸でもヒトデの仲間、*Asterias rubens*でSWSが起きている。福島原発事故から流出した放射性物質がアメリカ東海岸まで届いたという証拠(または明確なメカニズム)は全くなく、この点からも関連はないと言える。

SWSが起きている場所に生息する他の生物は何も影響を受けていない。

- ・「Three Reasons Why Fukushima Radiation Has Nothing to Do with Starfish Wasting Syndrome」 POSTED ON DECEMBER 30, 2013 BY DR. M, Deep Sea News

## 巨大イカ

- ・「【米国発! Breaking News】「放射能で巨大化したイカ」でっちあげ記事がTwitterの50万人を翻弄。(加州)」 2014年01月12日 11:00 by Joy 横手, @Techinsight\_JP

こちらは『Lightly Braised Turnip』というサイトが現地時間の10日に、「日本のフクシマから太平洋を漂流してきたとみられる、サンタモニカ沿岸部に打ち上げられた巨大イカ」という記事とともに紹介した写真である。記事では、触腕の先から三角のエラの先端までの長さが48.7mもあるとんでもないクリーチャーだとし、「福島第一原子力発電所事故の影響で、遺伝子の損傷が起きて巨大化した可能性を専門家は指摘している」などとある。この記事はさっそくTwitterを通してブレイクし、50万人もの人々をショックの渦に巻き込んだ。

見るからにコラなのだが、「放射能でイカが巨大化」という昔の怪獣映画なみの設定を信じる人がそんなにいることのほうが驚き。

- ・「49メートルのダイオウイカは偽物だった」 Jane J. Lee, National Geographic News, January 15, 2014

記事では、巨大イカをゴジラになぞらえ、おそらく日本の福島原子力発電所から出た放射線の犠牲と主張する。

フェイスブックやツイッターで人々が噂のイカの画像を共有し始め、偽ダイオウイカは本物のごとく広まっていた。

このような噂を調査するWebサイト「snopes.com」のスタッフは、サンタモニカの海岸沿いを車で走行しながら確認を行ったが、ダイオウイカの姿はまったく見当たらなかった。また、「そのような話題を載せた地元報道機関の記事すらもなかった」と報告する。

フリーライターのデイビッド・エメリー(David Emery)氏は、写真のイカは2013年10月にスペインの海岸に打ち上げられた9メートルのダイオウイカであると、「About.com」に書き込んだ。

この偽造写真は、スペインのイカの写真を引き伸ばして、浜辺に立つ人々の写真に合成したものだ。

なによりも「49メートルのイカ」という大きさは生物学的にあり得ないと思うのだが？

## 耳なしウサギ

- ・「福島・浪江町で「耳なしうさぎ」が生まれて騒然!」 ロケットニュース 24、2011年5月26日

上記のように、福島第一原発から約7kmのところの浪江町で、耳なしウサギが生まれて一時騒動となったが、とくに放射能の影響がなくても一定の確率で奇形は誕生する。たとえば、以下のように外国でも耳なしウサギが誕生した例がある。

- ・「【速報】中国で耳のないウサギが誕生、しかも3匹も」 ロケットニュース 24、2011年6月17日
- ・「モルモット?いいえ、耳なしウサギのヴィンセントちゃんです。」 カラパイア, 12月25日, 2008
- ・「耳のないウサギ、踏まれ圧死=取材カメラマンがうっかり-ドイツ」 時事ドットコム (2012/03/21-06:51)

【ベルリン時事】ドイツ東部のリンバツハオーバーフローナ動物園で、耳がなく、珍しいと話題を呼んでいたウサギの赤ちゃんが取材に来たカメラマンに踏まれ、圧死する悲劇が起きた。

このウサギは2月27日に生まれた「ティル」。今日14日、カメラマンがしゃがんで撮影中、バランスを崩してよろけ、うっかりティルを踏んだ。

- ・「Echter Keinohrhasse von Kameramann tot getreten!」 Promiflash.de, Mittwoch, 14. März 2012 | 18:31 Uhr | Laura S.
  - ・「Wo sind denn die L&#246;ffel?」 Freie Presse, erschienen am 13.03.2012 ( Von Gabi Thieme )
  - ・「"Keinohrhasse" geboren - und nach drei Wochen totgetreten」 Aus aller Welt - Hamburger Abendblatt, 14.03.2012, 15:33 Uhr
  - ・「German celeb bunny meets untimely demise」 Houston Chronicle, Updated 04:59 a.m., Sunday, March 18, 2012
- ・「耳のない赤ちゃんウサギ、愛らしさは変わらずドイツ」 AFPBB News, 2012年04月03日 15:32 発信地: ニーダールフ/ドイツ

【4月3日 AFP】ドイツ東部ニーダールフ(Niederdorf)で耳のないウサギが生まれ、地元の人々を驚かせている。生後4週間たった赤ちゃんウサギは、今のところ順調に成育している。(c)AFP

- ・「Das Keinohr-Kaninchen gibt's auch in Niederdorf」 Freie Presse, erschienen am 15.03.2012 ( Von Franziska Muth )
  - ・「Keinohr-Kaninchen wird Attraktion einer Osterhasenschau」 Freie Presse, erschienen am 28.03.2012 ( Von Gabi Thieme )
  - ・「Keine Ohren und doch kein Trost」 Gesellschaft, 16.03.2012
  - ・「Keine Ohren, aber darf&#252;r ganz sch&#246;n gro&#223;e F&#252;&#223;e!」 Bild.de, 19. März 2012
- ・「耳のないウサちゃんだって可愛い!! (耳なしウサギは意外といるみたい)」 Together, 2012/4/4

## バラの変異

- ・「バラに起こる奇妙な現象実例集」 教会の庭

イチヨウすす斑病とナンテンモザイク病

- ・「それは奇形じゃなく病気です」 うさうさメモ, 2011-08-16

「イチヨウすす斑病」と「ナンテンモザイク病」の写真を紹介している。どちらも放射能の影響ではない。

帯化現象

- ・「おばけに会ったお話」 自然観察的道楽生活、2003.7.22 up

「帯化とは何か」(草木図譜)によると、帯化(たいか)、綴化(てつか)や石化(せつか)とも呼ばれ、生長点が「線」状に変化したものであり、その結果、茎が幅広の帯状になる現象のこと。その原因は、遺伝子変異だけではなく、昆虫や細菌によって生長点が傷付けられた結果生じるものなどさまざまだ。従って一時的な帯化現象の場合もあれば、永続的な帯化品になる場合もあり、生け花に用いられたり、愛好家に栽培されたりもする。

その例として、「セッカヤナギ」(石化柳、オノエヤナギの園芸品種)や「ナギサノヒカリ」(渚の光、ユーフォルビア・スザンナエの帯化(たいか)した園芸品種)などが挙げられている。生け花にされた例としては、「セッカヤナギ(石化柳)」(いけばな古流理恩会)を参照。

日本大学環境生態学研究室の「研究室の紹介」、「トピックス」、「帯化タンポポに関する実験結果」を見ると、ここでは帯化タンポポについて調べており、その結果、帯化タンポポは遺伝しないことがわかったそうだ。

- ・「奇妙奇天烈 石化杉」 木のメモ帳

金魚葉椿

- ・「椿の奇形と不安の種と」 紺色の人、2011/07/08 (Fri)

育ちすぎのキャベツ

- ・「キャベツの奇形児」 ひよこのたまりば, 2011/07/04

上記サイトのブログ主は「キモイキモイキモイ...」と気味悪がっているが、芽キャベツのように見える。下記ブログのように、ふつうのキャベツでも育ち過ぎると脇芽が出て芽キャベツのようになるようである。

- ・その時はまめによろしく
  - ・「まもなく開花!」 2010.03.23
  - ・「ミニキャベツの正体は・・・」 2010.03.25

白い彼岸花

- ・「白い彼岸花と曲がったタンポポ」 院長の独り言, 2011年09月26日

白い彼岸花が咲いたと言って騒いでいる人もいるようだが、彼岸花によく似た白い花を咲かせる園芸植物（「シロバナマンジュシャゲ」 草木図譜）がある。

- ・「白い彼岸花」 Google 検索の結果
- ・「正光寺の白い彼岸花（福岡県築上郡築城町）」 あじこじ九州

白い彼岸花は福岡県の正光寺が有名。

### 割れたイチョウの葉

- ・「二つに割れてしまったイチョウの葉」 院長の独り言, 2011 年 10 月 04 日

この院長さんは生物について今までまったく関心がなかったようだ。イチョウの葉にもいろいろな形のものがある。

- ・「イチョウの葉」 Google 検索の結果

ちなみに、東京大学のイチョウマークは4つに割れているし、大阪大学のイチョウマークも真ん中に小さな切れ込みが入っている。これに対し、東京都のイチョウマークは割れていなかったりする。

### 青いフサギンボ

- ・「日本人写真家が撮影 放射能で変異した青いフサギンボ」 人民網日本語版, 更新時間: 09:57 Mar 30 2012

静かな海の中を、青い不思議な魚がひっそりと泳いでいる。体全体を覆う鮮やかな青の模様には白い斑点が混じり、所々にピンク色の模様も見える。ひげにも珊瑚のような小さな赤い物体が付着している。黄色く光る目の周りには、赤と黒の縞模様がかくつきりと見える。これは新種の魚ではなく、SF映画の特撮でもない。放射能の影響で変異を起したフサギンボなのだ。中国青年報が伝えた。

ところが、この記事の写真は、以下の復興支援のポストカードに使われているものと同じものようだ。

- ・「被災地の海を撮る～宮古・青の洞窟（フサギンボ）」 We can do it 頑張れ日本 大震災支援グッズ申し込み

水中カメラマン 鍵井靖章氏（<http://kagii.jp>）の撮影した被災地の海のポストカードです。震災後、力強く生きる海の姿です。

1枚 100円（うち90円義援・支援金 / 10円材料費）でお渡し致します。

撮影地は岩手県宮古市浄土ヶ浜「青の洞窟」（「浄土ヶ浜マリンハウス」を参照）のようで、福島県ではない。そもそも撮影者の鍵井靖章氏は「放射能で変異した」などとは言っていないし、そういったものを復興支援のポストカードに使うだろうか？この記事は、フサギンボの写真に適当な解説を付けて捏造したものと考えべきなのだろう。

案の定、以下の JC-NET の記事は、誤報であるということで削除されたが、おもとの「人民網日本語版」のほうは訂正されずそのままである。

- ・「衝撃 福島原発沖の奇形魚 放射能で突然変異始まる 鍵井靖章氏撮影」 JC-NET, 2012年3月30日
- ・「「衝撃 福島原発沖の奇形魚・・・」記事の訂正とお詫び」 JC-NET, 2012年4月2日

「衝撃 福島原発沖の奇形魚 放射能で突然変異始まる 鍵井靖章氏撮影」記事の掲載写真は、既存の魚であることが判明しました。誤報のため、取り消させていただきます。関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたし申し訳ありません。

なお、当記事は、鍵井氏が写真を発表した中国では、放射能汚染魚として流布されていることだけは間違いありません。念のため、「人民網日本語版」（人民日報）2012年3月29日版掲載。

また、「人民網日本語版」のほうでは最初「青いナマズ」としており、ネットユーザーから「これはナマズではなくフサギンポですね」との書き込みで、フサギンポに訂正したようだ。

- ・「放射能の影響でできたミュータント・ナマズだと思った？残念、みんなの人気者フサギンポちゃんでしたーっ！」 Together, 2012/3/31

なお、生物の体色はその食性に依存することがあり、たとえば、ザリガニはサバやアジばかり食べさせるとカロチノイドが不足し、青くなると言われている。以下のリンクを参照。

- ・「ザリガニを青くする方法」 アクアリウムお気楽オークション 技術研究室

日本にも一般的に生息しているアメリカザリガニはそれほど青くならないようだが、外国産のマロンと呼ばれる種は鮮やかな青（ブルーマロン）となることもあるようだ。以下のリンクを参照。

- ・「マロン（ブルーマロン）」 ザリガニ図鑑

チェルノブイリのオオナマズ

- ・「チェルノブイリの川で全長3～4メートルの巨大魚、「ミュータントフィッシュ」の存在が確認される」 カラパイア、2009/6/6

ヨーロッパにはヨーロッパオオナマズという巨大なナマズが生息しているので、これだけで「放射能のせい」と決め付けるわけにもいかない。「軍事ダイバーが、この巨大魚に咬まれて片手を失った」というのは「噂話」とのことなので、実際、根拠のない噂に過ぎないのだろう。

なお、同様の魚が以下の記事でも取り上げられている。

- ・「チェルノブイリ原発の冷却水には巨大ナマズが棲んでいる / パンクスを与えると喜ぶ」 ロケットニュース 24, 2012年7月10日
- ・「【ナターシャ通信】チェルノブイリの再発見 / デッカイなまず！ 美味しいご飯！ 綺麗な景色！」 ロケットニュース 24, ナターシャ / 2012年12月12日

ただし、こちらでは「ミュータントフィッシュ」だとか「軍事ダイバーが、この巨大魚に咬まれ

て片手を失った」などという与太話ではなく、ちゃんとナマズだと紹介され、ボリヤ君と名付けられていて、パン屑を食べる等といった話になっている。

- ・「[Wels catfish](#)」 Google 画像検索の結果
- ・「[バスケットボールを飲み込もうとして潜れなくなった巨大ナマズ](#)」 Gigazine, 2008 年 12 月 17 日 11 時 20 分 00 秒
- ・「[彼氏の趣味に合わせて釣りを始めた女性、超巨大ナマズを釣り上げる](#)」 Gigazine, 2011 年 10 月 07 日 10 時 36 分 16 秒

## 片足カエル

- ・「[片足カエル：大量発生は「ヤゴの捕食が原因」 北九州市が確定](#)」 毎日新聞 11 月 19 日 (土)16 時 14 分配信

### 「偶然の重なり、興味深い事例」

北九州市八幡東区の板櫃川で昨年、片脚がないツチガエルが大量に見つかった問題で、北九州市は 18 日、発生原因を「化学物質や遺伝などでなく、オタマジャクシの段階でヤゴに食べられた」とする調査結果を発表した。調査した専門家は「自然の偶然がいくつも重なって起きたと考えられ、生物学的に非常に興味深い事例だ」と指摘した。

片脚がないツチガエルは昨年 5 月から市民の連絡を受けた市の調査で数十匹相次いで見つかった。現場の水質を分析しても異常はなく、市は専門家をつくる「調査検討委員会」（委員長、小野勇一・九州大名誉教授）を設置。調査委はヤゴによる捕食の可能性が高いとみて調べていた。

調査報告書によると、ヤゴとツチガエルのオタマジャクシを同じ場所で飼育実験。オタマジャクシに生えてきた後脚などをヤゴが捕食したことを確認した。また、化学物質や紫外線などによる奇形との類似性が低いことも確認した。

さらに、発見現場はツチガエルなどが好んで生息する湿地だった。ツチガエルはオタマジャクシで越冬する場所があり、ヤゴに捕食される危険性が高い。昨年はヤゴが大量発生していたことなどの要因から、オタマジャクシ段階でヤゴに後脚を食べられたことが発生原因と結論づけた。

また、今春に市内の河川や貯水池を調べたところ、板櫃川と周辺だけでツチガエルが見つかった。だが、後脚のないカエルは確認されず、ヤゴも激減していた。

調査委委員で市立自然史・歴史博物館の武石全慈（まさよし）学芸員は「現場の湿地は昨年 7 月の大雨で大半が消失していた。捕食が起きた要因はいろいろな条件が重なったためだが、自然豊かな湿地の存在が大きいのではないか」と分析。小野委員長は「自然の中ではたくさん偶然が起きる。都市部でカエルの数が少なくなる中、北九州にツチガエルがいる自然があることは大きな財産だ」と指摘した。【河津啓介】

これは 2010 年のことなので、福島第一原発の事故とは全く関係がない。

### 3.11 以前

植物の変異と放射能を関連付けようとする市民運動は以前から存在していたようだ。以下のリンクを参照。

- ・「[驚愕の結果 桜の花びら異変調査](#)」 2006 年の調査データ、「桜花びら異変が多数みつかると！ ～原発放射能か？はたまた複合汚染か？」 鹿児島さくら花びら調査隊代表 小川みさ子

こういう調査をしても比較する対照群がないと、自然に起こる変異と放射能によるものの区別がつかないので意味がない。

### その他

- ・カラパイア
  - ・「コラのように見えるけどコラじゃない、個性的に変形した花々の画像（閲覧注意）」  
2013年04月07日
  - ・「ヒマワリの花にヒマワリが咲いた？不思議系ヒマワリが香川県で観測される」 2012年09月21日
  - ・「野菜の変異体をこよなく愛するドイツのコレクターのミュータント野菜コレクション」 2011年07月30日

## ヤマトシジミ

- ・「チョウの羽や目に異常 = 被ばくで遺伝子に傷か - 琉球大」 jiji.com, (2012/08/10-21:31)

東京電力福島第1原発事故の影響により、福島県などで最も一般的なチョウの一種「ヤマトシジミ」の羽や目に異常が生じているとの報告を、大瀧丈二琉球大准教授らの研究チームが10日までにまとめた。英科学誌に発表した。放射性物質の影響で遺伝子に傷ができたことが原因で、次世代にも引き継がれているとみられるという。

大瀧准教授は「影響の受けやすさは種により異なるため、他の動物も調べる必要がある。人間はチョウとは全く別で、ずっと強いはずだ」と話した。

研究チームは事故直後の昨年5月、福島県などの7市町でヤマトシジミの成虫121匹を採集。12%は、羽が小さかったり目が陥没していたりした。これらのチョウ同士を交配した2世代目の異常率は18%に上昇し、成虫になる前に死ぬ例も目立った。さらに異常があったチョウのみを選んで健康なチョウと交配し3世代目を誕生させたところ、34%に同様の異常がみられた。

- ・「The biological impacts of the Fukushima nuclear accident on the pale grass blue butterfly」  
Atsuki Hiyama, Chiyo Nohara, Seira Kinjo, Wataru Taira, Shinichi Gima, Akira Tanahara & Joji M. Otaki, Scientific Reports 2, Article number: 570 doi:10.1038/srep00570, Received 06 June 2012
- ・「ヤマトシジミにおける福島原発事故の生物学的影響」 檜山 充樹, 野原 千代, 金城 聖良, 平良 渉, 儀間 真一, 棚原 朗 & 大瀧 丈二, 2012年8月9日 Scientific Reports 2 : 570
- ・「福島原子力発電所事故のヤマトシジミへの生物学的影響」 文解説, 大瀧研究室

なお、この論文のコメント欄には Georgetown University の Timothy J. Jorgensen による「この論文には科学的な問題がいくつかあり、その発見の妥当性や、低線量放射線の昆虫や人間に対する効果について導き出される結論について、深刻な疑いを引き起こす」という批判が掲載されている。

また、この論文の著者でもある大瀧丈二 (Joji M. Otaki) 氏は、「松本文二」名で「ホメオパシー医学への招待」(フレグランスジャーナル社、1999年)という著書があったり、永松昌泰氏のハーネマンアカデミーで講師をしていたりする人物である。「2008年11月アーカイブ」(永松学長のひとりごと)を参照。

そんな大瀧氏は、原発事故以前には以下のような論文も書いていたりなんかする。

- ・「Phenotypic plasticity in the range-margin population of the lycaenid butterfly Zizeeria maha」  
Joji M Otaki, Atsuki Hiyama, Masaki Iwata, and Tadashi Kudo, BMC Evol Biol. 2010; 10: 252, Published online 2010 August 19
- ・「気温低下チョウ紋変化 大瀧准教授、ヤマトシジミで確認」 2010/09/05 10:28 【琉球新報】 47News

県内にも広く生息するチョウ・ヤマトシジミが温暖化に伴い秋田県から青森県へと生息圏を拡大する中で起きた羽の模様変化に着目し、環境の変化が生物進化を促す鍵になり得ることを、琉球大学理学部の大瀧丈二准教授(分子生理学)らの研究チームが突き止めた。ラシタ

中に異常が現れた中で環境に適応したものが残るといふ従来の常識から踏み込み、遺伝子の進化の基盤がある可能性を示した。大瀧准教授は「環境の変化による生物進化をリアルタイムで研究した世界でもまれな事例」と話している。

つまり、寒いところに住むヤマトシジミの羽の紋様には異常が現れやすいということ。以下のリンクも参照。

・「ヤマトシジミの異常現象」 青森の蝶たち

福島は青森よりは南にあるが、福島のヤマトシジミの異常は寒さの影響による異常よりもひどいものなのだろうか？

・「「原発事故でチョウに遺伝的異常」 准教授論文に異論相次ぐ」 J-CAST ニュース、2012/8/17 20:03

大阪大学大学院の近藤滋教授は、研究室サイト上のコラムで「批判の方に分がある」と指摘した。それは、ヤマトシジミの生息域が北上しており、それに伴って北限の東北地方では高い頻度で突然変異が見られるため、放射線の影響を測定するにはヤマトシジミはぶさわしくないと指摘した。

近藤教授はまた、論文を書いた大瀧丈二氏が何かを暴くためにわざとこうした論文を書いた「釣り」の試みでは、との疑問まで投げかけた。大瀧氏が実際、通常時でも変異が出ることを報告しており、しかもサンプル数が異常に少ないのも変だからだという。

パリ第5大学の堀川大樹研究員も、自らのブログ「むしプロ+」で、論文の主張に異論を述べた。ヤマトシジミの異常は、より緯度が高い青森などと比較しないと、寒さのためなの放射線の影響なのか分からないと言う。沖縄のヤマトシジミへの実験も、プラスチック容器の中に閉じ込めたことの影響が分からず、福島などで採取した葉を幼虫に食べさせたときの放射線量は実験よりかなり低くて比較するのは無理があるとしている。

ただ、大瀧氏らはこれらの主張にまだ反論などをしておらず、今後の検証が待たれていると言えそうだ。

大瀧氏が所属する琉球大の総務企画課では、「世界的に反響を呼んでおり、かなり問い合わせが来ています。論文について、大学としての見解は今のところありません」としている。

・「「原発事故でチョウに異常」という論文は、壮大な「釣り」ではないのか？」 連載コラム「生命科学の明日はどっちだ」番外編、大阪大学大学院 生命機能研究科 パターン形成研究室（近藤滋研究室）

・「ヤマトシジミの奇形は原発の影響によるものなのか」 むしプロ+、2012-08-13

・ Together

・「「ヤマトシジミ」を含むまとめ」

・「ヤマトシジミの異常は原発事故の影響？」 2012/8/11

・「『ヤマトシジミの異常は原発事故の影響？』後日談」 2012-08-13 08:55:40

これらの疑問に対する大瀧氏の回答については以下のリンクを参照。

・「ヤマトシジミにおける福島第一原子力発電所事故の影響の論文への質問等につきまして」 大瀧研究室

その後

・「福島原発周辺で「動植物異常」相次ぐ チョウやニホンザルなどに異常、研究者が被曝影響と指摘」 岡田 広行：東洋経済記者 2013年 04月 03日

・「羽山伸一氏「福島県に生息する野生ニホンザルにおける放射性セシウムの被ばく状況について」」 Together, 2013/4/3

- ・「番外編「原発事故でチョウに異常」という論文は、壮大な「釣り」ではないのか？」  
こんどうしげるの生命科学の明日はどっちだ！？

## Nature の記事

- ・「Fukushima offers real-time ecolab」 Ewen Callaway, 16 July 2013, NATURE, NEWS

## その他の報告

- ・「Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident」 Nakanishi, Tomoko M.; Tanoi, Keitaro (Eds.) Springer2013
- ・「福島<sup>1</sup>の動植物繁殖低下の可能性も 環境省調査」 2013/03/14 21:09 【共同通信】

東京電力福島第1原発事故による生態系への影響を調べるため、環境省が行っている動植物のモニタリング調査で、国際放射線防護委員会(ICRP)の基準で「繁殖率の低下などの影響が出る可能性がある」と推定されるキンブナやドジョウが警戒区域内にいたことが14日、分かった。

環境省が同日開いた放射線が野生動植物に与える影響についての会議で、調査結果として報告された。

報告によると、基準を上回る被ばくが確認されたのは、福島県双葉町で採取したタイリクバラタナゴとキンブナ、ドジョウ、大熊町と浪江町のネスミ2種。

## 実際のチェルノブイリ

チェルノブイリにおける動植物の変異についてはチェルノブイリの動植物を参照。